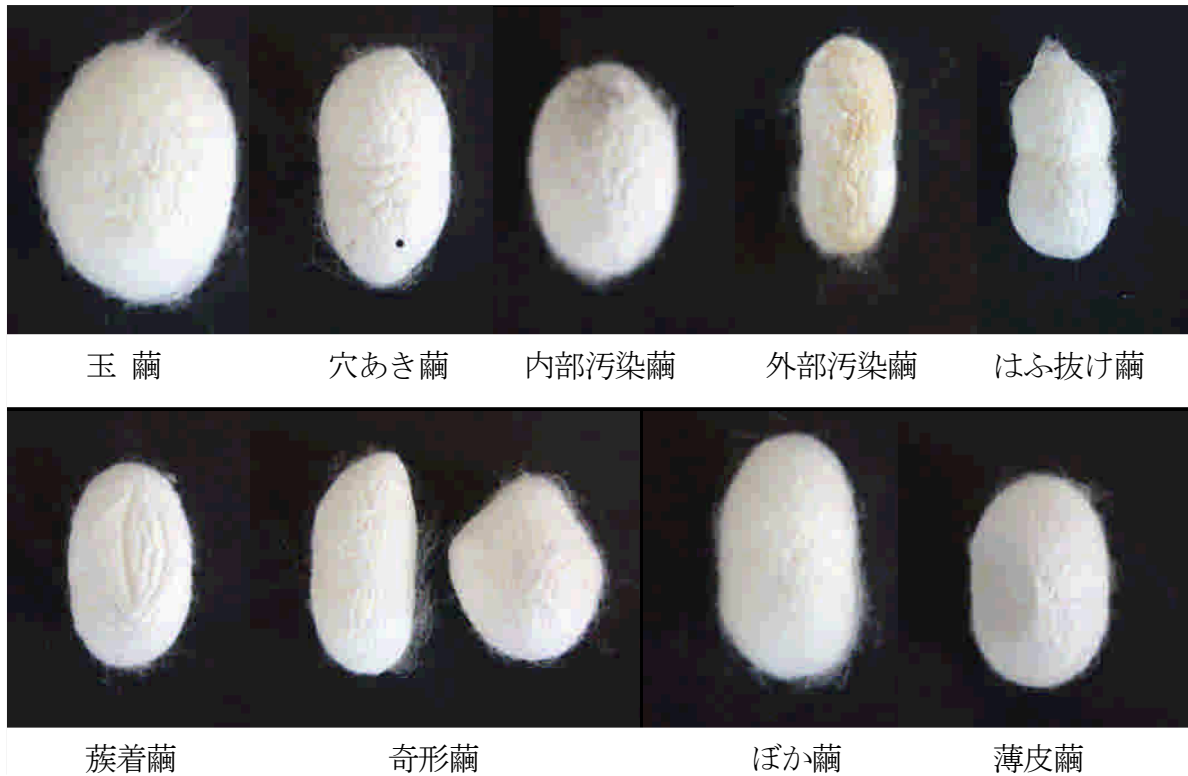


第3節 異常繭

異常繭は製糸原料として不適當なので、上繭と区別して取り扱わなければならない。



7-10 図 異常繭

(1) 玉繭^{たままゆ} 2頭か、まれには3頭以上の熟蚕が一つの繭を作ったもので、同功繭ともいい、繭層が厚く、ちぢら^①があらう。成因のうち最も大きいものは遺伝的な条件すなわち品種性であるが、最近一般に飼育されている品種は玉繭が少なくなっている。しかし、過熟蚕の上簇、厚上げ、営繭場所の少ない構造の簇を使った場合や、上簇中の高温多湿などの場合には、玉繭をつくりやすい。

なお、玉繭は一般的には良好な製糸原料には属さないが、特殊な織物であるシャンタンの原料糸としては重要である。

(2) 穴あき繭 蚕品種の関係による場合が多いが、寄生していたカイコノウジバエ^②が脱繭したのも穴あき繭になる。

(3) 内部汚染繭・外部汚染繭 繭の中で幼虫や蛹が死んでその死体が腐った場合や、

① 繭の表面のしわの状態をいう。

② 「きょうそ」ともいい、育蚕において単に「うじ」という場合はこのカイコノウジバエをさす。

傷ついて体液が出たときにできるのが内部汚染繭で、作柄が不良のときや収繭が早すぎる場合に出やすい。繭の中で幼虫のままか、蛹になって死んでいる繭を死ごもり繭とよび、その大部分は内部汚染繭である。

外部汚染繭は繭層の外部が汚れた繭で、繭をつくっているときに、ほかのまだ繭を作っていない熟蚕が排出した尿や、死体の腐った液が繭層について汚れたものである。

(4) はふ抜け繭 繭の両端が非常に薄いのをはふ抜け繭といい、蚕品種による場合が最も多い。また雌繭は雄繭よりも多く、縦つくり繭は横つくりのものより多い。催青中の高温、壮蚕飼育中及び上簇中の多湿などもはふ抜け繭を多くする傾向がある。

(5) 胴切れ繭 繭の中央のくびれた目が薄いもので、蚕品種によるほか、催青中の高温や未熟蚕の上簇または簇中の高温多湿の場合にできやすい。

(6) 簇着繭（板付繭） 繭層に簇などの跡が堅くついたもので、その跡の形にはいろいろのものがある。この繭は繰糸が困難で、糸が切れたり節が多くなりやすい。蚕品種によって多くでる場合のほか、未熟蚕の上簇、簇の材料や構造がよくない場合、上簇中の高温多湿において出現しやすい。

(7) 奇形繭^{きけいけん} 繭が、その品種固有の形でないもので、とがったものやいびつなものなどいろいろの形のものがある。蚕品種によってできやすいものがあり、また、作柄の悪いときや、簇の構造が適当でない場合にもできやすい。

(8) 浮しわ繭・薄皮繭・二重繭層繭 浮しわ繭はぼか繭ともいい繭の形が大きくふくらんで、ちぢらがしまらないであらく、ぼかぼかした繭のことである。これは蚕品種によってでやすい場合が多いが、上簇中の高温乾燥の場合もできやすい。

薄皮繭とは、繭層全体が非常に薄い繭で、作柄の悪いときにできやすい。

二重繭層繭は外観では見分けにくいだが、繭層が二重、三重になっているものである。蚕品種による場合もあるが、吐糸営繭中に温湿度が急に大きく変化したり、強い風や直射日光が一時的に当たった場合などに出現しやすい。

第4節 収 繭

第1. 収繭の時期

繭を作り終わって中の幼虫が蛹となり、蛹の色が茶褐色になって皮膚が十分堅くなったから収繭する。しかし、蛹になっても皮膚が柔らかいうちに収繭すると、蛹が傷ついて体液が出るので、内部汚染繭になりやすい。また、収繭がおそすぎると春蚕期などでは、カイコウジバエの幼虫が脱繭して穴あき繭となる。収繭の適期は春・晩秋(21～24℃)では、

上簇後7～8日目、夏秋期(25～27℃)では6～7日目である。最も安全な方法は、繭を数粒切開して蛹の状態を確かめてから収繭することである。

収繭はまず死んだ蚕や薄皮繭を取り除いてから行う。この死蚕体や薄皮繭は消毒つぼに入れるか、焼きすてる。



7-11 図 収繭作業

第2. 選 繭

収繭した繭は、毛羽取機^{けぼ}にかけ、毛羽^{けぼ}①をとって選繭を行う。選繭はていねいに行い異常繭が混じらないようにする。異常繭が混ざって出荷されると、繭検定のときに選除繭として取り扱われ出荷した繭全体の格付けが低下する。

選繭して出た異常繭は区別して処理する。

第3. くず繭の処理

上繭以外のくず繭は、なるべく早く売るか、早く焼却して、蛾が出ないようにする。処置が遅れると、カイコノウジバエの幼虫が出てきたり、繭の中で死んだ蚕の病原菌が飛び散る危険が生ずる。

第5節 後片付け

収繭や出荷がすんだら、養蚕に使った蚕室・蚕具をできれば消毒してから洗い、簇は死蚕などがついていないようにきれいに整理して一部屋に入れ、蚕室・蚕具の消毒を行う。

掃立て前の消毒もちろん大切であるが、養蚕が終わった直後に消毒することは、非常に効果が大きい。すなわち、次の掃立てまで蚕室・蚕具をそのままにしておくと、蚕病の病原菌が飛び散って、次蚕期に思わぬ不作を招くことがある。

① 繭綿，繭毛羽ともいう。蚕が繭を作るときに、最初に吐き出す糸。繭層の外側をおおっている真綿のような繭糸で、収繭後、取除く。絹糸紡績の原料になる。